

LESSON 32

最もコストパフォーマンスが高い改善施策は、「申し送り業務の短縮（記録の読み上げの排除）」です。

選定理由 電子カルテと紙の二重入力問題は、システム担当部署から「仕様です」と言われるなど、システム改修のコストや時間がかかる可能性が高い課題です。一方、申し送り業務の短縮は「記録に書いてあることをそのまま読み上げる」という現在の慣習をやめるだけで実行でき、追加の費用をかけずに現場のルール変更のみですぐに取り組めるため、最もコストパフォーマンスが高いと言えます。

実施した場合の効果（試算）

- ・ 業務時間の創出: 現在1時間～1時間15分かかっている申し送りを、他病院の事例目安である15分程度で終わらせる仕組みに変更することで、夜勤1回あたり45分～1時間の業務時間を削減（創出）できる見込みです。

実施した場合の影響

- ・ 残業の削減とスタッフの負担軽減: 創出された時間を活用することで、現在常態化している「夜勤明け2～3時間の残業」を直接的に減らすことができます。これにより、限界を超えつつあるスタッフの体力的・精神的な負担が軽減されます。
- ・ 患者へのケアの質向上: 長すぎる申し送りに奪われていた時間を、患者さんへの観察時間に還元できるようになるため、本末転倒な状態が解消され、患者さんへのケアの質が上がるのが期待できます。

この申し送りの改善施策を病棟内で提案・共有するために、視覚的にわかりやすいスライド資料（スライドデッキ）を作成しましょうか？